

東北産業(五戸)がグループホーム着工



福祉人材育成の場に

光星学院と連携、実地研修

野辺地

五戸町の東北産業(上山貫社長)は八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)と連携し、野辺地町に来年4月オープン予定の認知症対応型高齢者グループホーム「野辺地荘」を、介護福祉人材の育成拠点とする。同法人の高校や大学などに、実地研修の場として活用してもらおう。5日、枇杷野幼稚園跡地の建設予定地で地鎮祭を行った。

(赤田和俊)

東北産業グループは現在、27カ所の高齢者福祉施設を運営。昨年4月には同法人八戸学院大・短大地域連携研究センターと連携協定を締結し、健康を通じた地域活性化を目指している。同町で認知症対応型施設が不足しているため、町側と協議を進めていた。

野辺地荘では、福祉系の科目がある八戸市の光星学院高校や八戸学院大学・短大などの実地研修を予定。隣接する同法人野辺地西高校の職場体験も受け入れ、介護福祉職を志す高校生をグループホーム野辺地荘の地鎮祭で神事を行う(上山貫社長)

増やしたいと考えた。上山社長は取材に「福祉教育の実践の場を提供したい。学校の生徒減や町人口減の対策にもなる」、法官新一理事長は「野辺地西高校に福祉科を設置する構想もある。創立44年を迎える同校の新たな一歩」とした。

野辺地荘は木造平屋で、延べ床面積約870平方メートル。今月中旬に着工し、来年3月完成予定だ。受け入れ人数は27人、従業員21人。敷地約3300平方メートルは同法人から購入した。